

■**税所教子** 御歌所派を代表した歌人。宮中に快活明朗な気風を養成することに尽力した。

さいしょあつこ

異国船打払令1825＝ 京都鴨川東錦織村に生れる。宮家付の武士林大椽篤国の娘。母は栄子。

高島砲術・・1834＝ **9歳**：

__堂上派の歌人千種有功に師事して和歌を学ぶ。

大塩平八郎乱1837＝12歳：

父死去後、

順天堂始・・1843＝**18歳**：

天保改革終・1844＝19歳：京都勤番鹿兒島藩士税所篤之の後妻となり、1男1女を生む。

阿部正弘首座1845＝20歳：

万次郎帰国・1852＝**27歳**：夫の死去後鹿兒島に移り、姑に孝養を尽した。西下の紀行に「心つくし」がある。

ペリー来航・1853＝28歳：

__藩主島津斉彬に認められ、その六男哲丸の守り役を命じられた。

桜田門外変・1860＝35歳：

遣欧使節・・1861＝**36歳**：

8月18日政変 1863＝38歳：__島津久光の養女貞姫(香蘭院)が大納言近衛忠房と結婚するのに従い、お付老女として京に上る。以後、近衛家に仕出し、

明治維新・・1868＝43歳：

初の日刊新聞1870＝**45歳**：

明治6年政変 1873＝48歳：__忠房が死去すると、香蘭院に従って東京の近衛邸に移る。

初の民間工場1875＝50歳：***御歌所所長高崎正風の推挙で宮内省に入り、権掌侍となって皇后・皇太后に仕え、楓の内侍と呼ばれる。**

沖縄県編入・1879＝**54歳**：

明治14年政変1881＝56歳：

__公卿の娘で占められた宮中において武士の娘として、皇后の歌の相手・女官の歌の指導などに20数年精励し、宮中に快活明朗な気風を養成することに尽力した。その歌風は清新・温雅で、桂園派の代表的女流歌人に数えられる。

初の対等条約1888＝**63歳**：***歌集「御垣の下草」を出版し、**

帝国憲法発布1889＝64歳：

日清戦争始・1894＝69歳：

日清戦争終・1895＝70歳：***「内外詠史歌集」を編集、**

八幡製鉄始・1897＝**72歳**：

ピアノ国産化・1900＝75歳：***危篤に際し掌侍に任じられ、正五位に叙されて、没した。**

没後、歌集「御垣の下草後編」。

「日本の女性」、